

○新たな料金体系表(基本水量を10m<sup>3</sup>とした場合)

給水管口径 (mm)	基本料金		従量料金 (円/m <sup>3</sup> )	増減率	全体増減率
	金額 (円)	基本水量 (m <sup>3</sup> )			
13	1,990	10	150	17.9%	19.8%
20	1,990	10	150	15.8%	
25	2,100	10	150	28.7%	
30	3,900	10	150	23.3%	
40	6,400	10	150	29.6%	
50	11,500	10	150	22.0%	

【新たな料金表の特徴】

- ①従量料金は、現在の一般用等の超過料金と同等としました。
- ②現在の一般用料金体系と同様に、基本料金内に基本水量10m<sup>3</sup>を設けています。

10年間で水道事業運営に必要な費用  
 ⇒ 人件費  
 ・ 備品購入費  
 ・ 水道施設建設時の借金返済  
 ・ 民間業者への委託費用 等  
 約13億4千万円

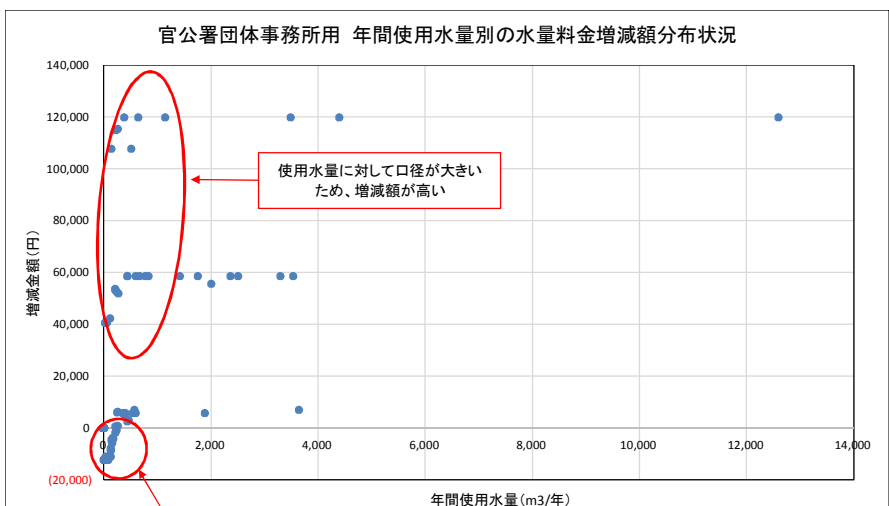
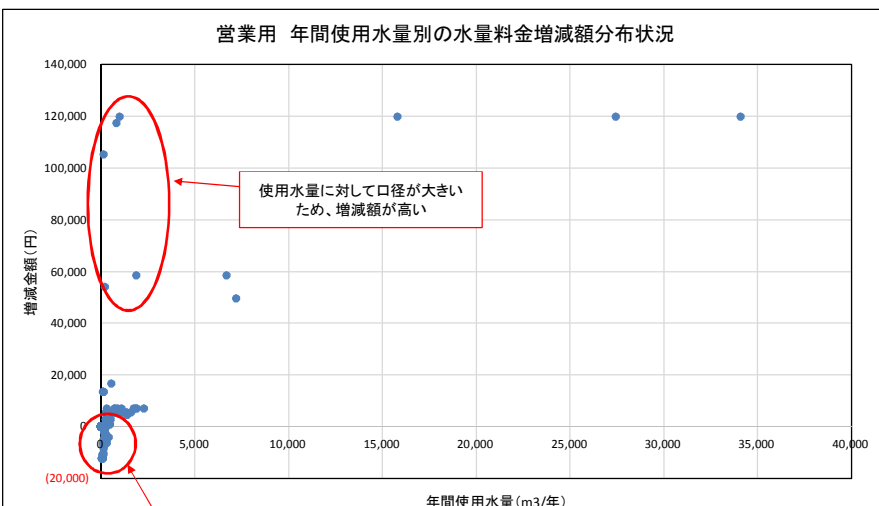
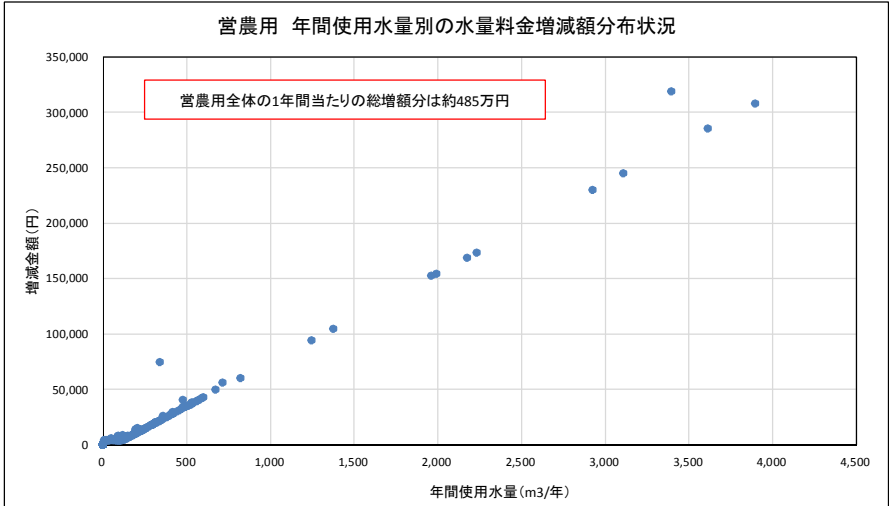
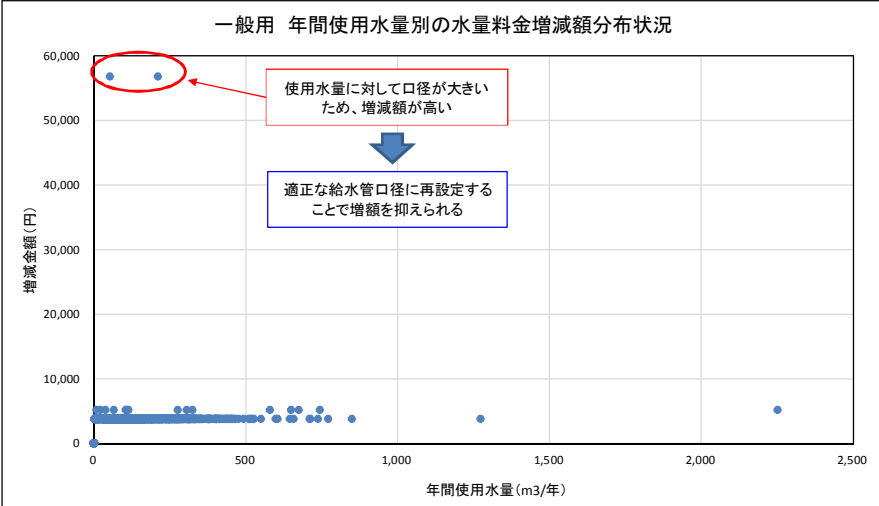
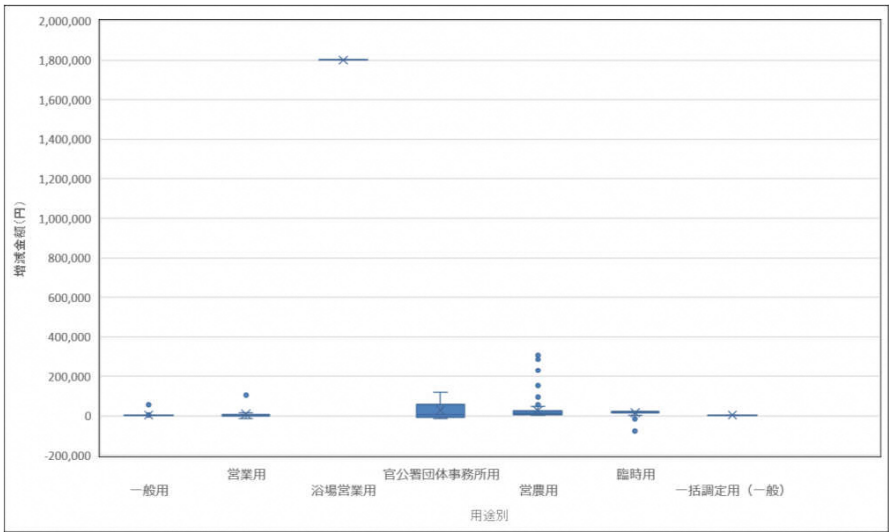
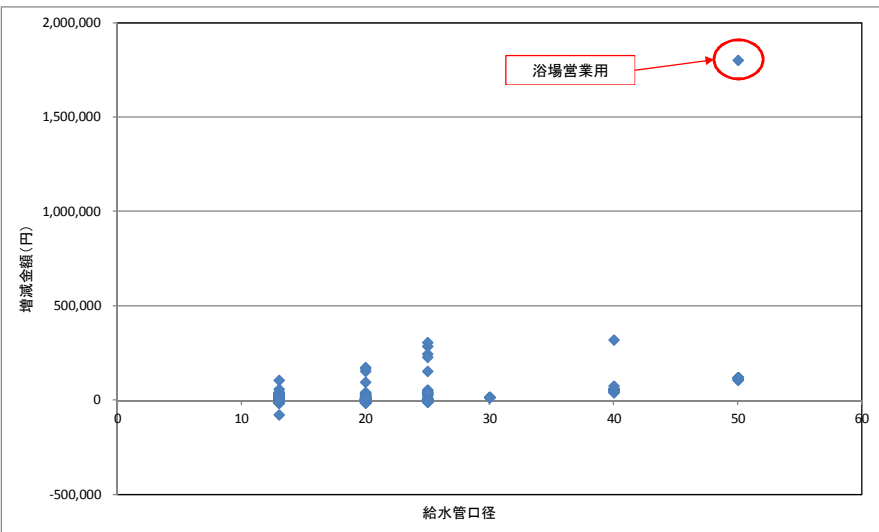
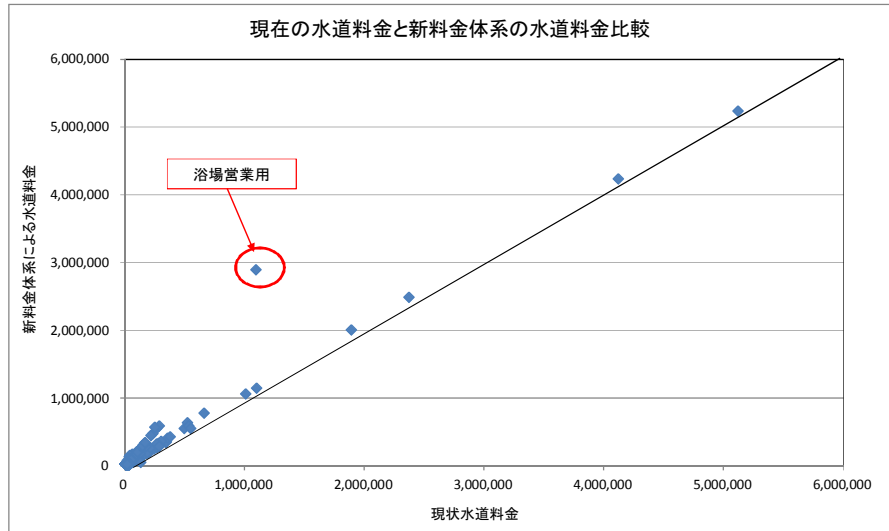
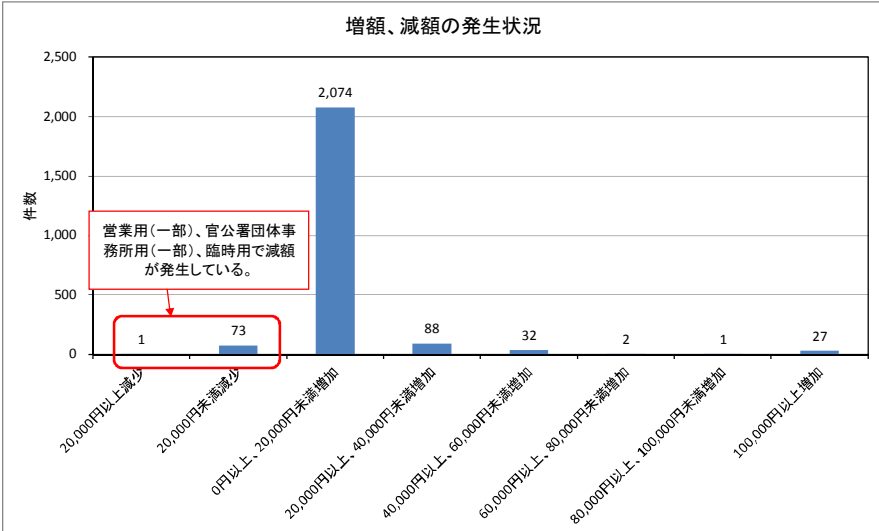
10年間でニセコ町一般会計より繰入される金額  
 約2億4千万円

10年間で水道利用者様にご負担頂く費用  
 約11億円

給水管の口径別に基本料金、従量料金に分配

【メリット・デメリット】  
 メリット・・・現在の基本水量と同じため、使用水量の影響なく水道使用者全体で増額分を負担してもらえる  
 水道事業として、個々の使用水量に関わらず、これまでと同様の一定額の収入を全員から徴収できる  
 現行に比べて一般用途では料金が減少する人がおらず、増加率は2～19%の範囲である。増加率の差はあるが、水道料金収入全体の増加を利用者全員で負担する案となっている  
 デメリット・・・全体的に増額負担を配分するため、所得の低い者に対しても負担増となる  
 使用水量が少ない単身者などが節水に努めても負担額は減らない(基本使用料までは節水へのインセンティブが働きにくい)

・現在の料金体系による各利用者の水道料金との比較結果



営業用では、基本水量20m<sup>3</sup>を含む基本料金は3,030円である事から、使用水量の少ない利用者では減額になっている。

営業用と同様に官公署団体事務所用では、基本水量20m<sup>3</sup>を含む基本料金は3,030円である事から、使用水量の少ない利用者では減額になっている。